

星空歴史秘話

星座は今からおよそ5000年前、古代メソポタミアで誕生したと考えられています。はるか昔から人々は星空をながめ、その動きの中に法則を見つけってきました。農耕や狩猟といった生活を営むためには、季節の変化を知ることが必要になります。そこで星を頼りに季節の移り変わりを知り、生活の指標にしてきました。

一方日本でも古代の時代から、星を専門に観測する人々がいて、様々な天文現象の記録が残されています。日本では西洋の星座とは独立に発達した、中国の星座が使われていました。そして星空で起こる現象は、天からのメッセージと考えられていました。そのため、星の動きを絶えず観測して、将来を予測したり、悪いことが起こるのを防ごうとしたりしていたのです。

夜空の星は規則正しく変化しながらも、時には思いもかけない天文現象が起こり、私たちが驚かせたりもします。古い観測記録には、日食や月食が起こったことや、突然星が明るく輝く、超新星が現れた記録も残っています。これらの記録は、星空が長い時間の間にどう変化するかを知る手掛かりとなり、現在の天文学にも生かされています。過去の人々が出会った星空を紹介しながら、どのように宇宙に関わってきたのか、探ってみましょう。



企画・制作：江越 航(学芸員)

天の川をさぐる

夏から秋の夜、空が暗くて星がよく見える場所で夜空を眺めると、天の川を見ることが出来ます。天の川の光はふつ々の星のそれとは異なり、ぼんやりとしているので、雲や霧のように感じられます。そこで昔から人々は、天の川の正体は何なのかと考え、その謎を解きあかそうとしてきました。でも昔の時代は、正体がわからなかったので、人々は天に流れる川やミルクなどという神話や伝説を作って説明していました。

天の川の研究が進んだのは15世紀以降のことです。大航海時代には、南半球へ渡ったヨーロッパ人が、天の川が夜空をぐるりと取り巻いていることを発見します。さらに17世紀以降には、望遠鏡を使った観測により、天の川が星の集まりであることや、それらの星々がどのように宇宙に分布しているか、ということが明らかになりました。そして現在では、天の川は、約2,000億個の恒星があつまって形作る「天の川銀河（銀河系）」という巨大な天体であることがわかりました。さらに、天の川銀河と同じよう